

DCダイワJ-REITアクティブファンド

運用報告書（全体版） 第20期 （決算日 2016年11月10日）

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／不動産投信（リート）	
信託期間	無期限	
運用方針	信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。	
主要投資対象	ベビーファンド	ダイワJ-REITアクティブ・マザーファンドの受益証券
	ダイワJ-REITアクティブ・マザーファンド	わが国の金融商品取引所上場（上場予定を含みます。以下同じ。）の不動産投資信託の受益証券および不動産投資法人の投資証券（以下総称して「不動産投資信託証券」といいます。）
マザーファンドの運用方法	①わが国の金融商品取引所上場の不動産投資信託証券を主要投資対象とし、配当等収益の確保と信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。 ②投資にあたっては、以下の方針に従って行なうことを基本とします。 イ．個別銘柄の投資価値を分析して、銘柄ごとの配当利回り、期待される成長性、相対的な割安度などを勘案し投資銘柄を選定します。 ロ．個別銘柄の組入不動産の種類等を考慮します。 ③不動産投資信託証券の組入比率は、通常の状態では信託財産の純資産総額の80％程度以上に維持することを基本とします。	
組入制限	ベビーファンドのマザーファンド組入上限比率	無制限
	マザーファンドの投資信託証券組入上限比率	無制限
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益等とし、原則として、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。	

当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行ないます。ファミリーファンド方式とは、受益者からの資金をまとめてベビーファンド（当ファンド）とし、その資金を主としてマザーファンドの受益証券に投資して、実質的な運用をマザーファンドで行なう仕組みです。

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「DCダイワJ-REITアクティブファンド」は、このたび、第20期の決算を行ないました。

ここに、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

お問い合わせ先（コールセンター）

TEL 0120-106212

（営業日の9：00～17：00）

<http://www.daiwa-am.co.jp/>

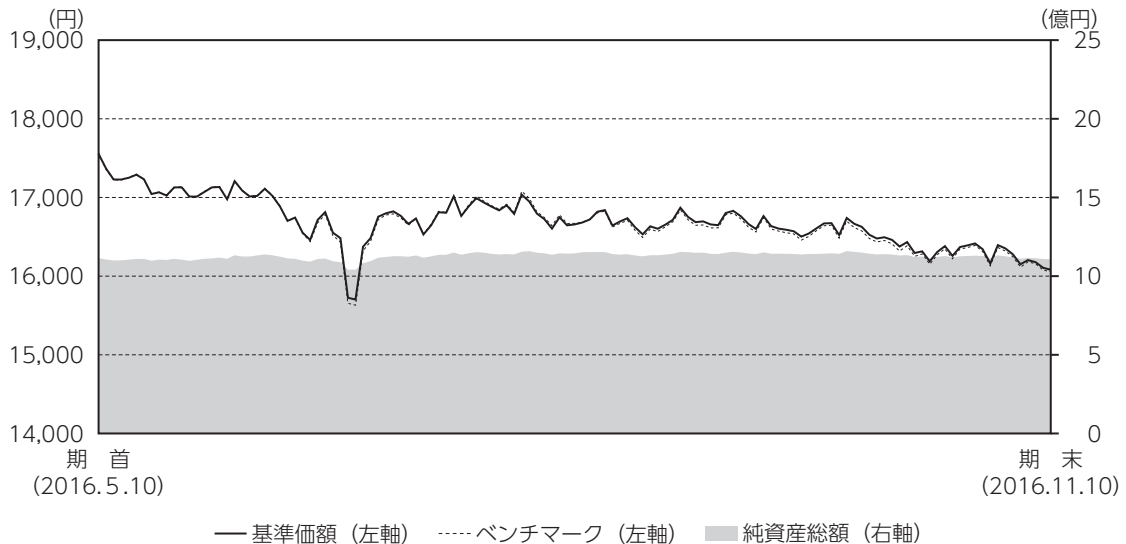
最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額			東 証 R E I T 指 数 (配当込み)		投 資 信 託 券 組 入 比 率	純 資 産 総 額
		税 込 分 配 金	期 騰 落 中 率	(ベンチマーク)	期 騰 落 中 率		
	円	円	%		%	%	百万円
16期末(2014年11月10日)	14,401	0	15.3	2,921.37	15.3	97.5	722
17期末(2015年 5 月11日)	16,183	0	12.4	3,247.69	11.2	97.2	854
18期末(2015年11月10日)	15,182	0	△ 6.2	3,029.91	△ 6.7	97.7	808
19期末(2016年 5 月10日)	17,554	0	15.6	3,506.91	15.7	98.0	1,115
20期末(2016年11月10日)	16,082	0	△ 8.4	3,207.83	△ 8.5	97.8	1,107

(注) 投資信託証券組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

《運用経過》

基準価額等の推移について



(注) ベンチマークは、期首の基準価額をもとに指数化したものです。

* ベンチマークは東証ＲＥＩＴ指数（配当込み）です。

■基準価額・騰落率

期 首：17,554円

期 末：16,082円

騰落率：△8.4%

■基準価額の主な変動要因

「ダイワＪ－ＲＥＩＴアクティブ・マザーファンド」の受益証券を通じて、わが国のリートに投資した結果、日銀の金融政策のスタンスが徐々に変化したことによって長期金利の下げ止まり感が生じたことなどを背景に、Ｊリート市況が期末にかけて軟調に推移したため、基準価額は下落しました。

DCダイワＪ－ＲＥＩＴアクティブファンド

年 月 日	基 準 価 額		東 証 Ｒ Ｅ Ｉ Ｔ 指 数 (配当込み)		投資信託証券 組 入 比 率
		騰 落 率	(ベンチマーク)	騰 落 率	
(期首) 2016年 5 月10日	円 17,554	% －	3,506.91	% －	% 98.0
5 月末	17,128	△2.4	3,422.69	△2.4	97.9
6 月末	16,756	△4.5	3,340.35	△4.7	96.5
7 月末	16,949	△3.4	3,394.01	△3.2	98.1
8 月末	16,687	△4.9	3,325.60	△5.2	97.2
9 月末	16,739	△4.6	3,336.34	△4.9	97.6
10月末	16,394	△6.6	3,269.40	△6.8	98.1
(期末) 2016年11月10日	16,082	△8.4	3,207.83	△8.5	97.8

(注) 騰落率は期首比。

投資環境について

○Ｊリート（不動産投信）市況

Ｊリート市況は、日銀がマイナス金利の導入を柱とする追加金融緩和策を発表した後の上昇基調が、徐々に一巡する中で始まりました。2016年6月に入ると、ＥＵ（欧州連合）残留か離脱かを問う英国の国民投票が離脱多数で大勢が決したことを受けて投資家のリスク回避姿勢が強まり、急速な円高と国内株式市況の下落が同時進行する中、Ｊリート市況も一時調整を余儀なくされました。その後は、良好な米国経済指標の発表などを受けて株式市況が落ち着きを取り戻し、Ｊリート市況も戻り基調となりました。期末にかけては、日銀の金融政策に対するスタンスが徐々に変化する中で、長期金利がさらに低下していくことへの期待が後退したことなどを背景に、軟調に推移しました。

前期における「今後の運用方針」

○当ファンド

「ダイワＪ－ＲＥＩＴアクティブ・マザーファンド」の受益証券へ投資を行ないます。

○ダイワＪ－ＲＥＩＴアクティブ・マザーファンド

個別銘柄ごとの流動性を勘案しつつＪリートに幅広く分散投資を行ない、配当等収益の確保と信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行ないます。現状では、業績動向やM&A（合併・買収）などを含めた経営戦略の変更といった個別銘柄ごとの材料を重視してポートフォリオを構築しており、当面はこのスタンスを維持する方針です。用途別では、賃料の上昇ペースが緩慢ではあるものの、相対的に景気敏感なオフィス・セクターや、訪日観光客の増加などにより変動賃料の増加が期待できるホテル・セクターにも引き続き注目しています。

ポートフォリオについて

○当ファンド

「ダイワＪ－ＲＥＩＴアクティブ・マザーファンド」の受益証券へ投資を行ないました。

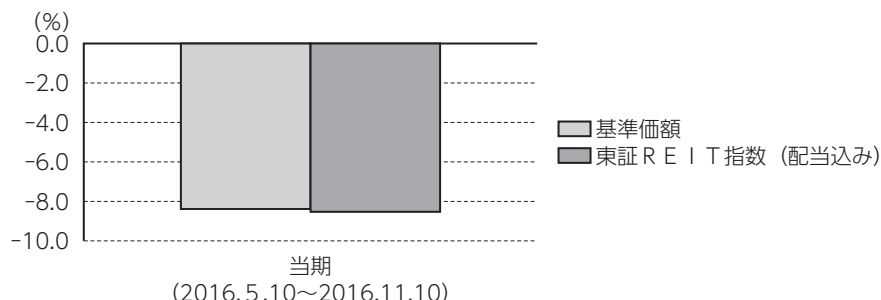
○ダイワＪ－ＲＥＩＴアクティブ・マザーファンド

リートの組入比率につきましては、通常の状態では信託財産の純資産総額の80％程度以上に維持することを基本としており、おおむね95～98％台程度で推移させました。銘柄の選択にあたっては、収益力や成長性に比して相対的に割安と判断された銘柄群の中から、財務体質や流動性を加味して選別投資しました。個別銘柄では、期を通じて見るとインベスコ・オフィス・ジェイリート、ジャパンリアルエステイト、積水ハウス・リートなどを東証ＲＥＩＴ指数と比較してオーバーウエートとし、東急リアル・エステート、産業ファンド、イオンリート等をアンダーウエートとしました。

ベンチマークとの差異について

当期におけるベンチマーク（東証ＲＥＩＴ指数（配当込み））の騰落率は△8.5％となりました。一方、当ファンドの騰落率は△8.4％となりました。2016年8月に新規上場した三井不動産ロジスティクスパークの組み入れに加えて、投資口価格のパフォーマンスが東証ＲＥＩＴ指数（配当込み）を上回った積水ハウス・リートなどをオーバーウエートとしていたことや、投資口価格のパフォーマンスが東証ＲＥＩＴ指数（配当込み）を下回った森トラスト総合リートのアンダーウエートなどが、プラスに寄与しました。他方、投資口価格のパフォーマンスが東証ＲＥＩＴ指数（配当込み）を上回った積水ハウス・ＳＩレジデンシャルをアンダーウエートとしていたことや、投資口価格のパフォーマンスが東証ＲＥＩＴ指数（配当込み）を下回ったジャパン・ホテル・リートとインベスコ・オフィス・ジェイリートのオーバーウエートなどが、マイナス要因となりました。

以下のグラフは、当ファンドの基準価額とベンチマークとの騰落率の対比です。



分配金について

当期は、経費控除後の配当等収益が計上できなかったため、収益分配を見送らせていただきました。
なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■分配原資の内訳（１万口当たり）

項 目		当 期
		2016年5月11日 ～2016年11月10日
当期分配金（税込み）	(円)	—
対基準価額比率	(%)	—
当期の収益	(円)	—
当期の収益以外	(円)	—
翌期繰越分配可能額	(円)	10,987

（注１）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

（注２）円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

（注３）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

※なお、投資信託約款上の分配対象額は、上記分配可能額のうち経費控除後の配当等収益等です。

《今後の運用方針》

○当ファンド

「ダイワＪ－ＲＥＩＴアクティブ・マザーファンド」の受益証券へ投資を行ないます。

○ダイワＪ－ＲＥＩＴアクティブ・マザーファンド

個別銘柄ごとの流動性を勘案しつつＪリートに幅広く分散投資を行ない、配当等収益の確保と信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行ないます。配当利回りなどで見た個別銘柄ごとのバリュエーション格差がやや広がっていますが、現状では各社ごとの業績動向や経営戦略といった観点を重視してポートフォリオを構築しており、当面はこのスタンスを維持する方針です。

1 万口当りの費用の明細

項 目	当期		項 目 の 概 要
	(2016.5.11～2016.11.10)		
	金 額	比 率	
信託報酬	68円	0.408%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は16,690円です。
(投信会社)	(32)	(0.191)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、目 論見書・運用報告書の作成等の対価
(販売会社)	(32)	(0.191)	販売会社分は、運用報告書等各种書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後 の情報提供等の対価
(受託銀行)	(5)	(0.027)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	5	0.032	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権総口数
(投資信託証券)	(5)	(0.032)	売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有価証券取引税	—	—	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数
			有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
その他費用	0	0.003	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(監査費用)	(0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	74	0.443	

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■売買および取引の状況

親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2016年5月11日から2016年11月10日まで)

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
ダイワＪ－ＲＥＩＴ アクティブ・マザーファンド	69,972	168,570	34,429	82,130

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況

(1) ベビーファンドにおける期中の利害関係人との取引状況

当期中における利害関係人との取引はありません。

(2) マザーファンドにおける期中の利害関係人との取引状況

(2016年5月11日から2016年11月10日まで)

決 算 期	期					
区 分	当			期		
	買付額等 A	うち利害 関係人との 取引状況B	B／A	売付額等 C	うち利害 関係人との 取引状況D	D／C
投資信託証券	百万円 9,707	百万円 2,698	% 27.8	百万円 10,009	百万円 1,961	% 19.6
コール・ローン	145,558	－	－	－	－	－

(注) 平均保有割合1.4%

※平均保有割合とは、マザーファンドの残存口数の合計に対する当該ベビーファンドのマザーファンド所有口数の割合。

(3) 利害関係人の発行する有価証券等

(2016年5月11日から2016年11月10日まで)

種 類	当 期		
	ダイワＪ－ＲＥＩＴアクティブ・マザーファンド		
	買 付 額	売 付 額	期末保有額
投資信託証券	百万円 263	百万円 －	百万円 1,866

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 単位未満は切捨て。

(4) 利害関係人である金融商品取引業者が主幹事となつて発行される有価証券

(2016年5月11日から2016年11月10日まで)

種 類	当 期
	ダイワＪ－ＲＥＩＴアクティブ・マザーファンド
	買 付 額
投資信託証券	百万円 733

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 単位未満は切捨て。

(5) 期中の売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

(2016年5月11日から2016年11月10日まで)

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	361千円
うち利害関係人への支払額 (B)	93千円
(B)／(A)	25.7%

(注) 売買委託手数料総額は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当期における当ファンドに係る利害関係人とは、大和証券、大和証券オフィス投資法人です。

■組入資産明細表
親投資信託残高

種 類	期 首	当 期	末
	口 数	口 数	評 価 額
	千口	千口	千円
ダイワＪ－ＲＥＩＴアクティブ・マザーファンド	443,613	479,157	1,107,140

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2016年11月10日現在

項 目	当 期	末
	評 価 額	比 率
	千円	%
ダイワＪ－ＲＥＩＴアクティブ・マザーファンド	1,107,140	99.5
コール・ローン等、その他	5,252	0.5
投資信託財産総額	1,112,393	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2016年11月10日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	1,112,393,560円
コール・ローン等	5,252,791
ダイワＪ－ＲＥＩＴアクティブ・マザーファンド(評価額)	1,107,140,769
(B) 負債	4,672,329
未払解約金	36,027
未払信託報酬	4,605,689
その他未払費用	30,613
(C) 純資産総額(A－B)	1,107,721,231
元本	688,809,508
次期繰越損益金	418,911,723
(D) 受益権総口数	688,809,508口
1万口当り基準価額(C／D)	16,082円

*期首における元本額は635,250,955円、当期中における追加設定元本額は153,785,310円、同解約元本額は100,226,757円です。
*当期末の計算口数当りの純資産額は16,082円です。

■損益の状況

当期 自2016年5月11日 至2016年11月10日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 877円
受取利息	50
支払利息	△ 927
(B) 有価証券売買損益	△ 85,864,073
売買益	7,461,117
売買損	△ 93,325,190
(C) 信託報酬等	△ 4,636,302
(D) 当期損益金(A＋B＋C)	△ 90,501,252
(E) 前期繰越損益金	171,598,395
(F) 追加信託差損益金	337,814,580
(配当等相当額)	(585,216,162)
(売買損益相当額)	(△247,401,582)
(G) 合計(D＋E＋F)	418,911,723
次期繰越損益金(G)	418,911,723
追加信託差損益金	337,814,580
(配当等相当額)	(585,216,162)
(売買損益相当額)	(△247,401,582)
分配準備積立金	171,598,395
繰越損益金	△ 90,501,252

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。
(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。
(注3) 収益分配金の計算過程は「収益分配金の計算過程（総額）」の表をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	0円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0
(c) 収益調整金	585,216,162
(d) 分配準備積立金	171,598,395
(e) 当期分配可能額(a＋b＋c＋d)	756,814,557
(f) 分配金	0
(g) 翌期繰越分配可能額(e－f)	756,814,557
(h) 受益権総口数	688,809,508口

ダイワＪ－ＲＥＩＴアクティブ・マザーファンド

運用報告書 第22期（決算日 2016年11月10日）

（計算期間 2016年5月11日～2016年11月10日）

ダイワＪ－ＲＥＩＴアクティブ・マザーファンドの第22期にかかる運用状況をご報告申し上げます。

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

運 用 方 針	信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行ないます。
主 要 投 資 対 象	わが国の金融商品取引所上場（上場予定を含みます。以下同じ。）の不動産投資信託の受益証券および不動産投資法人の投資証券（以下総称して「不動産投資信託証券」といいます。）
運 用 方 法	①わが国の金融商品取引所上場の不動産投資信託証券を主要投資対象とし、配当等収益の確保と信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行ないます。 ②投資にあたっては、以下の方針に従って行なうことを基本とします。 イ．個別銘柄の投資価値を分析して、銘柄ごとの配当利回り、期待される成長性、相対的な割安度などを勘案し投資銘柄を選定します。 ロ．個別銘柄の組入不動産の種類等を考慮します。 ③不動産投資信託証券の組入比率は、通常の状態では信託財産の純資産総額の80％程度以上に維持することを基本とします。
投資信託証券組入制限	無制限

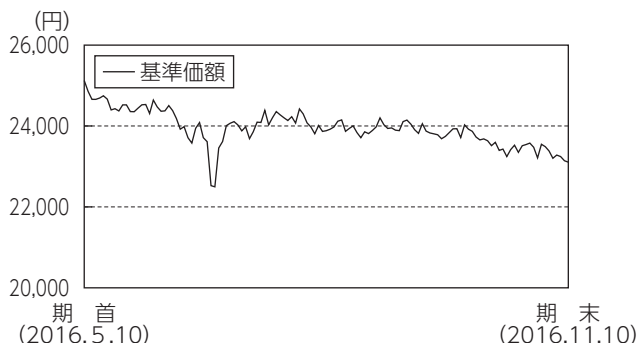
大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

<http://www.daiwa-am.co.jp/>

■当期中の基準価額と市況の推移



年 月 日	基 準 価 額		東証ＲＥＩＴ指数(配当込み)		投資信託 組入比率
	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率	
(期首)2016年5月10日	円 25,124	% —	3,506.91	% —	% 98.1
5月末	24,525	△2.4	3,422.69	△2.4	98.0
6月末	24,009	△4.4	3,340.35	△4.7	96.5
7月末	24,299	△3.3	3,394.01	△3.2	98.1
8月末	23,939	△4.7	3,325.60	△5.2	97.3
9月末	24,028	△4.4	3,336.34	△4.9	97.7
10月末	23,549	△6.3	3,269.40	△6.8	98.1
(期末)2016年11月10日	23,106	△8.0	3,207.83	△8.5	97.9

(注) 騰落率は期首比。

《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：25,124円 期末：23,106円 騰落率：△8.0%

【基準価額の主な変動要因】

英国の国民投票でのＥＵ（欧州連合）離脱派の勝利による先行き不透明感からの下落局面からは脱したものの、日銀の金融政策に対するスタンスが徐々に変化の中で、長期金利がさらに低下していくことへの期待が後退したことなどを背景に、Ｊリート市況が期末にかけて軟調に推移したため、基準価額は下落しました。

◆投資環境について

○Ｊリート（不動産投信）市況

Ｊリート市況は、日銀がマイナス金利の導入を柱とする追加金融緩和策を発表した後の上昇基調が、徐々に一巡する中で始まりしました。2016年6月に入ると、ＥＵ残留か離脱かを問う英国の国民投票が離脱多数で大勢が決したことを受けて投資家のリスク回避姿勢が強まり、急速な円高と国内株式市況の下落が同時進行する中、Ｊリート市況も一時調整を余儀なくされました。その後は、良好な米国経済指標の発表などを受けて株式市況が落ち着きを取り戻し、Ｊリート市況も戻り基調となりました。期末にかけては、日銀の金融政策に対するスタンスが徐々に変化の中で、長期金利がさらに低下していくことへの期待が後退したことなどを背景に、軟調に推移しました。

◆前期における「今後の運用方針」

個別銘柄ごとの流動性を勘案しつつＪリートに幅広く分散投資を行ない、配当等収益の確保と信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行ないます。現状では、業績動向やＭ＆Ａ（合併・買収）などを含めた経営戦略の変更といった個別銘柄ごとの材料を重視してポートフォリオを構築しており、当面はこのスタンスを維持する方針です。用途別では、賃料の上昇ペースが緩慢ではあるものの、相対的に景気敏感なオフィス・セクターや、訪日観光客の増加などにより変動賃料の増加が期待できるホテル・セクターにも引き続き注目しています。

◆ポートフォリオについて

リーートの組入比率につきましては、通常の状態 で信託財産の純資産総額の80%程度以上に維持することを基本としており、おおむね95～98%台程度で推移させました。銘柄の選択にあたっては、収益力や成長性に比して相対的に割安と判断された銘柄群の中から、財務体質や流動性を加味して選別投資しました。個別銘柄では、期を通じて見るとインベスコ・オフィス・ジェイリート、ジャパンリアルエステイト、積水ハウス・リートなどを東証ＲＥＩＴ指数と比較してオーバーウエートとし、東急リアル・エステート、産業ファンド、イオンリート等をアンダーウエートとしました。

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

当ファンドは、参考指数として東証ＲＥＩＴ指数（配当込み）を用いています。当期における東証ＲＥＩＴ指数（配当込み）の騰落率は△8.5%となりました。一方、当ファンドの騰落率は△8.0%となりました。2016年8月に新規上場した三井不動産ロジスティクスパークの組み入れに加えて、投資口価格のパフォーマンスが東証ＲＥＩＴ指数（配当込み）を上回った積水ハウス・リートなどをオーバーウエートとしていたことや、投資口価格のパフォーマンスが東証ＲＥＩＴ指数（配当込み）を下回った森トラスト総合リーートのアンダーウエートなどが、プラスに寄りました。他方、投資口価格のパフォーマンスが東証ＲＥＩＴ指数（配当込み）を上回った積水ハウス・ＳＩレジデンシャルをアンダーウエートとしていたことや、投資口価格のパフォーマンスが東証ＲＥＩＴ指数（配当込み）を下回ったジャパン・ホテル・リートとインベスコ・オフィス・ジェイリートのオーバーウエートなどが、マイナス要因となりました。

《今後の運用方針》

個別銘柄ごとの流動性を勘案しつつＪリートに幅広く分散投資を行ない、配当等収益の確保と信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行ないます。配当利回りなどで見た個別銘柄ごとのバリュエーション格差がやや広がっていますが、現状では各社ごとの業績動向や経営戦略といった観点を重視してポートフォリオを構築しており、当面はこのスタンスを維持する方針です。

■ 1 万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料 (投資信託証券)	8円 (8)
有価証券取引税	－
その他費用	－
合 計	8

(注 1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。費用の項目および算出法については前掲の「1 万口当りの費用の明細」の項目の概要をご参照ください。

(注 2) 各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

■主要な売買銘柄
投資信託証券

(2016年 5月11日から2016年11月10日まで)

当 期				期			
買		付		売		付	
銘 柄	口 数	金 額	平均単価	銘 柄	口 数	金 額	平均単価
	千口	千円	円		千口	千円	円
平和不動産リート	10	841,354	84,135	日本リートルファンド	4	975,457	243,864
ラサールロジポート投資	8	829,847	103,730	大和ハウスリート投資法人	2.76	816,769	295,931
イオンリート投資	6	768,895	128,149	太和ハウスリート	1.2	779,419	649,516
産業ファンド	1.4	740,436	528,882	ユナイテッド・アーバン投資法人	4	728,663	182,165
グローバル・ワン不動産投資法人	1.8	706,021	392,234	日本ビルファンド	1.1	675,584	614,168
三井不ロジパーク	2	569,692	284,846	ジャパン・ホテル・リート投資法人	8	626,111	78,263
ＳＩＡ不動産投資	1.2	511,673	426,394	インヴィンシブル投資法人	10	577,727	57,772
森ヒルズリート	3	458,177	152,725	フロンティア不動産投資	0.9	468,904	521,004
オリックス不動産投資	2.5	444,798	177,919	ジャパンリアルエステイト	0.7	431,386	616,267
積水ハウス・ＳＩ レジデンシャル投資法人	3.6	427,749	118,819	三井不ロジパーク	1.3	422,298	324,845

(注 1) 金額は受渡し代金。

(注 2) 金額の単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

フ ァ ン ド 名	当 期			末	
	口 数	評 価	額	比	率
	千口		千円		%
不動産投信	3	1,396,500	1.9		
日本アコモデーションファンド投資法人	2	657,000	0.9		
MCUBS MidCity投資法人	18	2,620,800	3.5		
森ヒルズリート	1.5	795,000	1.1		
産業ファンド	8	2,320,000	3.1		
アドバンス・レジデンス	4	1,188,000	1.6		
ケネディクスレジデンシャル	5	2,492,500	3.3		
A P I 投資法人	20	2,592,000	3.5		
G L P 投資法人	4	968,000	1.3		
コンフォリア・レジデンシャル	11	2,636,700	3.5		
日本プロロジスリート	1	577,000	0.8		
星野リゾート・リート	1.5	528,000	0.7		
ＳＩＡ不動産投資	7	879,200	1.2		
イオンリート投資	9	1,608,300	2.1		
ヒューリックリート投資法	3	785,700	1.0		
日本リート投資法人	12	986,400	1.3		
インベスコ・オフィス・Jリート	10	1,435,000	1.9		
積水ハウス・リート投資	4	970,800	1.3		
ケネディクス商業リート	2	214,600	0.3		
ヘルスケア&メディカル投資	0.5	72,400	0.1		
ジャパン・シニアリビング					

■売買および取引の状況

投資信託証券

(2016年 5月11日から2016年11月10日まで)

	買 付		売 付	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
国内	63.485	9,707,338	55.76 (－)	10,009,282 (－)

(注 1) 金額は受渡し代金。

(注 2) 売付(－)内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

(注 3) 金額の単位未満は切捨て。

フ ァ ン ド 名	当 期			末	
	口 数	評 価	額	比	率
	千口		千円		%
野村不動産マスターＦ	27	4,527,900	6.1		
ラサールロジポート投資	14	1,506,400	2.0		
三井不ロジパーク	0.7	226,450	0.3		
日本ビルファンド	9	5,355,000	7.2		
ジャパンリアルエステイト	9.3	5,412,600	7.2		
日本リートルファンド	15	3,445,500	4.6		
オリックス不動産投資	16	2,758,400	3.7		
日本プライムリアルティ	4.2	1,873,200	2.5		
プレミアム投資法人	10	1,333,000	1.8		
グローバル・ワン不動産投資法人	2	784,000	1.0		
ユナイテッド・アーバン投資法人	16	2,756,800	3.7		
森トラスト総合リート	4	650,000	0.9		
インヴィンシブル投資法人	17	918,000	1.2		
フロンティア不動産投資	3	1,431,000	1.9		
平和不動産リート	10	782,000	1.0		
日本ロジスティクスファンド投資法人	7	1,557,500	2.1		
福岡リート投資法人	1	172,800	0.2		
ケネディクス・オフィス投資法人	3	1,833,000	2.4		
積水ハウス・ＳＩ レジデンシャル投資法人	4	469,600	0.6		
いちごオフィスリート投資法人	8	580,800	0.8		

フ ア ン ド 名	当 期 末		
	口 数	評 価 額	比 率
	千口	千円	%
大和証券オフィス投資法人	3.23	1,866,940	2.5
阪急リート投資法人	4.895	722,991	1.0
大和ハウスリート投資法人	11	3,138,300	4.2
ジャパン・ホテル・リート投資法人	22	1,645,600	2.2
日本賃貸住宅投資法人	14	1,076,600	1.4
ジャパンエクセレント投資法人	5	712,000	1.0
合 計	口 数、金 額	366,825	73,260,281
	銘柄数<比率>	46銘柄	<97.9%>

※森ヒルズリート、アドバンス・レジデンス、ＡＰＩ投資法人、ＧＬＰ投資法人、コンフォリア・レジデンシャル、日本プロロジスリート、ＳＩＡ不動産投資、イオンリート投資、ヒューリックリート投資法人、積水ハウス・リート投資、ケネディクス商業リート、三井不動産パーク、日本ビルファンド、日本リートールファンド、オリックス不動産投資、グローバル・ワン不動産投資法人、ユナイテッド・アーバン投資法人、平和不動産リート、積水ハウス・ＳＩＬレジデンシャル投資法人、いちごオフィスリート投資法人、大和証券オフィス投資法人、ジャパン・ホテル・リート投資法人、日本賃貸住宅投資法人につきましては、各ファンドで開示されている直近の有価証券報告書または有価証券届出書において、当社の利害関係人等（投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定されている法人等をいいます。）である大和証券、大和リアル・エステート・アセット・マネジメント、ミカサ・アセット・マネジメントが当該ファンドの運用会社または一般事務受託会社となっています。
 (注1) 比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率。
 (注2) 評価額の単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2016年11月10日現在

項 目	当 期 末		
	評 価 額	比 率	
	千円	%	
投資信託証券	73,260,281	97.9	
コール・ローン等、その他	1,589,095	2.1	
投資信託財産総額	74,849,377	100.0	

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2016年11月10日現在

項 目	当 期 末		
	当 期	末	
(A) 資産	74,849,377,038円		
コール・ローン等	698,474,465		
投資信託証券(評価額)	73,260,281,500		
未収入金	231,936,398		
未収配当金	658,684,675		
(B) 負債	9,160,000		
未払解約金	9,160,000		
(C) 純資産総額(A－B)	74,840,217,038		
元本	32,390,535,874		
次期繰越損益金	42,449,681,164		
(D) 受益権総口数	32,390,535,874口		
1万口当り基準価額(C／D)	23,106円		

＊期首における元本額は33,041,891,516円、当中における追加設定元本額は1,811,707,238円、同解約元本額は2,463,062,880円です。
 ＊当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額は、安定重視ポートフォリオ(奇数月分配型) 24,064,378円、インカム重視ポートフォリオ(奇数月分配型) 22,304,762円、成長重視ポートフォリオ(奇数月分配型) 105,471,338円、6資産バランスファンド(分配型) 196,218,407円、6資産バランスファンド(成長型) 377,131,374円、世界6資産均等分散ファンド(毎月分配型) 62,749,137円、『しがきん』ＳＲＩ三資産バランス・オープン(奇数月分配型) 2,504,007円、ダイワ資産分散インカムオープン(奇数月決算型) 65,907,260円、成果リレー(ブラジル国債&Ｊ－ＲＥＩＴ) 2014－07 59,428,134円、成果リレー(ブラジル国債&Ｊ－ＲＥＩＴ) 2014－08 59,775,196円、ＤＣダイワ・ワールドアセット(六つの羽/安定コース) 163,397,907円、ＤＣダイワ・ワールドアセット(六つの羽/6分散コース) 218,076,392円、ＤＣダイワ・ワールドアセット(六つの羽/成長コース) 254,966,202円、ＤＣダイワＪ－ＲＥＩＴアクティブファンド479,157,262円、ダイワファンドラップＪ－ＲＥＩＴセレクト29,112,574,581円、ライフハーモニー(ダイワ世界資産分散ファンド)(成長型) 148,990,477円、ライフハーモニー(ダイワ世界資産分散ファンド)(安定型) 44,780,998円、ライフハーモニー(ダイワ世界資産分散ファンド)(分配型) 240,357,193円、ダイワＪリート・ファンド752,680,869円です。
 ＊当期末の計算口数当りの純資産額は23,106円です。

■損益の状況

当期 自2016年5月11日 至2016年11月10日

項 目	当 期		
	当 期	末	
(A) 配当等収益	1,269,987,295円		
受取配当金	1,233,721,719		
その他収益金	36,545,800		
支払利息	△ 280,224		
(B) 有価証券売買損益	△ 7,859,145,068		
売買益	703,242,177		
売買損	△ 8,562,387,245		
(C) その他費用	△ 275		
(D) 当期損益金(A＋B＋C)	△ 6,589,158,048		
(E) 前期繰越損益金	49,972,578,570		
(F) 解約差損益金	△ 3,439,783,120		
(G) 追加信託差損益金	2,506,043,762		
(H) 合計(D＋E＋F＋G)	42,449,681,164		
次期繰越損益金(H)	42,449,681,164		

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。
 (注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。